

# 第一回「渋谷区小中一貫教育校（千駄谷小学校・原宿外苑中学校）建て替え準備委員会」を実施しました

渋谷区では渋谷区『新しい学校づくり』整備方針に基づき、老朽化した校舎及び体育館等の建て替えを進めています。渋谷区立千駄谷小学校と原宿外苑中学校は、学校の建て替えを機に、原宿外苑中学校敷地にて小中一貫教育校の設置を予定しています。

建て替えにあたっては、「新しい学びの空間」の実現を目指して、小中一貫教育校として相応しい学校環境の整備を行います。建て替え後の新しい学校や移転中の学校運用等について、関係者の皆様に情報共有をするとともに、意見交換を行うため、学校やPTA・地域団体等の代表の皆様で構成された「渋谷区小中一貫教育校（千駄谷小学校・原宿外苑中学校）建て替え準備委員会」を設置しました。

今後も、皆様と情報共有・意見交換を重ねながら、新しい学校づくりを進めていきます。

発行年月日：令和6年12月18日  
 発行者：渋谷区教育委員会事務局  
 住所：〒150-8010 渋谷区宇田川町1番1号  
 問い合わせ先：電話：03-3463-2795 Mail：sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo

## R6.10.31 第一回委員会 議題

①委員会設置・会議の運営について

②渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要

③建て替え準備委員会スケジュールについて

④小中一貫教育校建て替えの概要

⑤既存施設と法的規制について

⑥意見交換

## 委員会設置・会議の運営について

- ・目的：幅広い意見を募るため
- ・組織：学校長、PTA代表、地域代表、渋谷区教育委員会事務局ほか
- ・開催頻度：2か月に1回程度

渋谷区『新しい学校づくり』整備方針に基づいた「新しい学びの空間」の実現を目指して、小中一貫教育校として相応しい学校環境の整備を行います。

- 1. 敷地の特性も活かした安心・安全で活動的な教育環境づくり**
  - ・敷地形状や特性を最大限に活かした校舎配置と屋外空間とし、児童・生徒が活動しやすい環境を整備します。
  - ・建物内外ともセキュリティをしっかりと確保し、子ども達が安心して学べる施設づくりとします。
- 2. 地域とともに歩む、地域が誇れる学校づくり**
  - ・今後長期間に渡って地域に根差す学校として、積極的な地域開放が出来る施設構成とします。
  - ・円滑な運用が出来る地域開放動線計画を行い、学校と地域が共に育てている学校づくりを目指します。
- 3. 小中一貫教育校の多様な学びを体現できるラーニング・コモンズ**
  - ・9年間の学びの場として、児童・生徒が協働も出来る主体的・対話的な学びの場をつくります。
  - ・教室は、教科や規模に応じて可能な限り可変的なつくりとし、柔軟な教育活動に対応できるようにします。

### ラーニング・コモンズのイメージ

子供達がタブレットや本で情報収集しながら主体的に学べる共有空間です。一人で集中する学び、グループで協働する学びなど多様な学習スタイルに対応しています。



出典：青山キャンパス

### 整備方針の説明資料



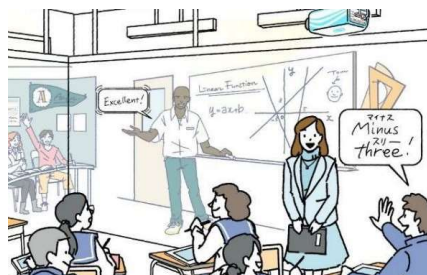
敷地周辺環境の分析資料



敷地の都市計画に関する主要な法規制

## 渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要について

“ちがいをちからに変える”ことができる次世代人材を育てる渋谷をテーマに、シブヤモデル『未来の学校』の創造を目的として、2022年5月に、具体的なイメージや整備水準、ロードマップなどを整備方針としてまとめています。



出展：整備方針にあるイメージ図



整備方針の内容  
(区ホームページ)

一定制について

2024.10.31 小中一貫教育校 建て替え準備委員会の資料

新しい小中一貫教育校では、一定制の導入を検討しています。

一定制の概要 上層を廃止することにより、通学時の下層を増やすことなく、校舎や校庭、その他の併設施設等の利用を可能とする施設運用制度

【主なメリット】

- ①教育活動の活性化向上
  - ・「大規模な開口部」により自然光を取り入れることで、教室での活動や授業などの学習にも活用でき、より多様な教育活動が可能となる。
  - ・幅員が狭く開口部が小さいため、内装設備の導入や教育活動の場づくりが容易となる。
  - ・内外のつながりが強くなり、自然環境や地域資源とつながりやすくなる。
  - ・内外のつながりが強くなり、自然環境や地域資源とつながりやすくなる。
- ②安全安心の確保
  - ・空間に大きな設備を設置する必要があるが、施設のリアリティを確保しやすい。
  - ・事故防止の確保が不要となり、より簡便な設備の導入が可能となる。
- ③利便性の向上
  - ・空間に大きな設備を設置する必要があるが、施設のリアリティを確保しやすい。
  - ・事故防止の確保が不要となり、より簡便な設備の導入が可能となる。
- ④コスト削減
  - ・開口部に対する断熱対策への対応が不要となり、施設全体の省エネ化が期待できる。

【主なデメリット】

- ・校舎の老朽化に伴って、校舎や外装の劣化により、空間や設備の劣化が心配される。
- ・「大規模な開口部」による自然光の取り入れは、熱対策が必要となる。
- ・体育館等の併設施設を利用する際、体育館などの併設施設に設置する必要がある。
- ・雨天日は開口部に遮りネット等を使用するなど、教育活動の確保に留意する必要がある。
- ・雨天日に、児童・生徒が雨風をしのぐために傘をさすなどの対応が必要となる。

### 一定制について

渋谷区では建て替え準備委員会にて頂いた意見を整理するとともに、ニュースレターを通じて進捗に関する情報発信とご意見をいただく機会を作っています。これからも引き続き、より良い小中一貫教育校を目指して委員会を開催していきますので、今後とも宜しくお願いいたします。

	ご質疑	ご回答
一足制	一足制について、他校での経験上、雨の日は注意が必要ですが、ほとんど汚れません。災害時も、下駄箱が倒れたり、逃げ場がなくなったりすることがなく、安全面でも非常に有効だと思います。また、スペースの有効活用にもなると思います。	ご意見ありがとうございます。雨の日などの対応を含め整備します。
	一足制について、小学生の立場で考えると、床の汚れや雨の日の対応は気になります。体育館履きの扱いもどうなるのでしょうか。	懸念点も含め検討していきます。体育館履きについては、個人用ロッカーを設けるなど、整備していきます。
小中一貫教育校建て替え	校庭の舗装については決まっているのでしょうか。	基本的には、砂や泥を校内に持ち込みにくい人工芝などの舗装を考えています。
	大雨が降ると、原宿外苑中の正門前の道路が冠水します。	原宿外苑中学校の敷地は、渋谷区洪水ハザードマップで一部分が浸水地域と示されています。いただいた情報は、今後の設計に反映し、対策します。
	学校を建てるのであれば、千駄谷小の敷地の方が高台になっているため、水はけの課題がある原宿外苑中よりも望ましいのではないのでしょうか。	建物高さの制限があり、千駄谷小は20mまでしか建てられません。一方で、原宿外苑中は、30mまで建てることができます。また、敷地面積も千駄谷小より広いため、原宿外苑中を選んでいきます。水はけの課題については設計にて対策します。
	原宿外苑中の正門前の道は、小中学生が一斉に登下校するには道が狭く、自転車なども多く通ります。門を分けたり、校舎側に児童生徒が溜まれるスペースを設けるなど、設計にて工夫をしてほしいです。	いただいた情報をもとに、今後、設計にて対応を検討します。
	5階建てや6階建ての校舎となった場合、小学生の移動等が大変になるのではないのでしょうか。	教室の配置など、児童・生徒の動線に配慮した計画とします。
	防災拠点としてはどのように整備されていくのでしょうか。	体育館は避難所として適切に整備を行うとともに、防災備蓄倉庫の設置についても計画をします。
	子どもたちの入学に関することも丁寧に説明してほしいです。	入学に関することは、今後、機会を設けて対象者へご説明します。